

研 究 業 績 (2016年 7月 12日現在)

鎌田 康男 (関西学院大学名誉教授)

連絡先 : <http://kamata.de/j/> に表記

おわび : 以下のリストは完全なものではありません。引き続き補充してまいります。

A. 著 書

(担当部分はすべて単著)

1. *Zeit der Ernte: Studien zum Stand der Schopenhauer-Forschung: Festschrift für Arthur Hübscher zum 85. Geburtstag.* Ed. W. Schirmacher (Stuttgart-Bad Cannstatt: Frommann Holzboog, 1982), „Schopenhauer, Hegel, Vasubandhu: Zum geschichtlich interkulturellen Gespräch zwischen Ost und West“, pp.228-239.
2. *Der junge Schopenhauer: Genese des Grundgedankens der Welt als Wille und Vorstellung.* (Freiburg/München: Alber, 1988), 333p., Original: *Wille und Vorstellung - zum Grundgedanken der Schopenhauerschen Philosophie* (Diss: Augsburg, 1985).
3. 宗像恵・中岡成文編著『西洋哲学史』(ミネルヴァ書房、1995年4月) 共著 「意志の哲学 — ショーペンハウアーとニーチェ」 275-283 ページ。
共著者 : 編著者のほか、伊藤邦武、常俊宗三郎、嶺秀樹等
4. *Schopenhauer in der Philosophie der Gegenwart.* Ed. D. Birnbacher (Würzburg: Verlag Königshausen & Neumann, 1996), „Die Schopenhauersche Wende der Philosophie – Einführung in die Philosophie als sanfte Wissenschaft“. pp.101-118.
共著者 : 編者のほか、Rudolf Malter, Alfred Schmidt, Matthias Köbler 等
5. *Nachdenken der Metaphysik. Festschrift für Alois Halder zum 70. Geburtstag.* (Ed.) J. Ev. Hafner, S. Müller, M. Negele, (Augsburg: Verlag Dr. Bernd Weißner, 1998). „Das Geheimnis der Metaphysikkritik. Schopenhauer und die metaphysische Kontemplation“, pp.177-188.
6. 鎌田康男・斎藤智志・高橋陽一郎・臼木悦生訳著『ショーペンハウアー哲学の再構築』(法政大学出版局、2000年10月20日) 共著 「ミレニアウムのショーペンハウアー」 157-184 ページ。
7. ショーペンハウアー、意志と表象としての世界 I (中公クラシックス W36、西尾幹二訳、中央公論新社、2004年8月10日) 共著 「ショーペンハウアーの修業時代」(解説文) 1-39 ページ。
8. *Die Ethik Arthur Schopenhauers im Ausgang vom Deutschen Idealismus (Fichte/Schelling)*, Lore Hühn, Philipp Schwab (Hrsg.), 560 Seiten, Würzburg: Ergon, 2006, 共著 „Der Einfluss von G. E. Schulze und Schelling auf Schopenhauers Theorie der Willensverneinung. Zur Standortbestimmung der Schopenhauerschen Philosophie“, pp.203-212.
9. 斎藤智志・高橋陽一郎・板橋勇仁編『ショーペンハウアー読本』(法政大学出版

- 局、2007年3月) 共著「ペシミズムとキリスト教」219—228ページ、B. 論文16と同じ。「意志の肯定か、意志の否定か — ショーペンハウアーとニーチェ」255—267ページ、B. 論文17と同じ。セクション4 芸術と宗教 ワークショップ 229—235ページおよびセクション5 意志の否定 ワークショップ 283—289ページの「鎌田」の見だしがある部分。
共著者：編者のほか、兵頭高夫、中嶋義道、山本幾生、上野山晃弘等
10. 哲学の歴史 9巻 反哲学と世紀末【19—20世紀】責任編集：須藤訓任 (中央公論新社、2007年8月)共著「ショーペンハウアー」175—214ページ。
 11. *Schopenhauer & Indian Philosophy: A Dialogue between India and Germany*. Arati Barua (Ed.) 312 Pages, New Delhi: Northern Book Centre, 2008, “Pessimistic Society versus Pessimistic Religion: Schopenhauer and Buddhism” pp.216-224.
 12. *Schopenhauer und die Schopenhauer-Schule. Beiträge zur Philosophie Schopenhauers Bd. 7*. Fabio Ciraci, Domenico M. Fazio, Matthias Köbler (Hrsg.), 384 Seiten, Würzburg: Verlag Würzburg: Königshausen & Neumann, 2009. „Schopenhauer-Verständnisse in den Hegelschulen um 1848" pp.179-188.
 13. 関西学院大学総合政策学部発行・亀田啓悟編『総合政策のニューフロンティア』（関西学院大学出版会、2010年3月）共著「知の世界地図を描こう — 総合政策のフィロソフィー」191—234ページ、および、亀田啓悟「公開シンポジウム 総合政策のニューフロンティア」235—285ページのうち、鎌田の発言分。
 14. Matthias Köbler (Ed.), *Schopenhauers Philosophie der Musik. Beiträge zur Philosophie Schopenhauers Band 10*, Würzburg: Verlag Königshausen & Neumann, 2011, pp.185-201, "Parsifal - Mitleid in der neuzeitlichen Gesellschaft".
 15. Daniel Schubbe, Matthias Köbler (Hrsg.), *Schopenhauer Handbuch*, Stuttgart - Weimar: Verlag J. B. Metzler, 2014, pp.156-166, „II. 7.1 Der Handschriftlicher Nachlass und der junge Schopenhauer“.
 16. Dieter Birnbacher (Hg.), *Schopenhauers Wissenschaftstheorie: Der Satz vom Grund. Beiträge zur Philosophie Schopenhauers Band 16*, Würzburg: Verlag Königshausen & Neumann, 2015, pp.45-58, „Die Kant-Rezeption des jungen Schopenhauer in Ueber die vierfache Wurzel des Satzes vom zureichenden Grunde“.
 17. Eduardo Ribeiro da Fonseca et al. (Eds), *Dogmatismo & Antidogmatismo: Filosofia Critica, Vondate e Liberdade*, Curitiba: Editora UFPR, 2015, pp.63-74, “Os anos escolares de Arthur Schopenhauer”, tradução de Jorge Luiz Viesenteiner (書き下ろしドイツ語原稿よりポルトガル語に翻訳：Jorge Luiz Viesenteiner)

B. 論文

(すべて単著)

0. 「カント『純粹理性批判』における純粹悟性概念の演繹」1973年、学士論文(京都大学文学士)
1. 「超越論的批判と物自体の問題」1975年、修士論文(京都大学文学修士)
2. Schopenhauer und der Buddhismus. *Schopenhauer-Jahrbuch*, 65 (1984), pp.233–237.
3. Technik als Vorspiel des Er-eignisses? Technik im Westen und Osten. *Philosophisches Jahrbuch*, 92 (1985), pp.125-129.
4. Wille und Vorstellung: Zum Grundgedanken der Schopenhauerschen Philosophie. (Diss. Augsburg, 1985). (博士学位論文「意志と表象。ショーペンハウアー哲学の根本思想について」)
5. 「ショーペンハウアー復興」『学鑑』(丸善)1988年7月号、24–26ページ。
6. 「若きショーペンハウアーにおける『表象としての世界』の構想 — ショーペンハウアー研究の新視角を求めて (第一部)」『武蔵大学人文学会雑誌』第19巻3・4号(1988年)、39–66ページ。
7. 「若きショーペンハウアーにおける『意志としての世界』の構想—ショーペンハウアー研究の新視角を求めて (第二部)」『武蔵大学人文学会雑誌』第20巻2・3号(1989年)、1–32ページ。
8. Platonische Idee und die anschauliche Welt bei Schopenhauer. *Schopenhauer-Jahrbuch*, 70 (1989), pp.84-93.
9. 「哲学のショーペンハウアー的転回 — 優しい学としての哲学序説」『ショーペンハウアー研究』創刊号(1993年1月)、137–150ページ。
10. 「さまよえるワグナー」『岡崎学園国際短期大学論集』No.1(1994年3月)、1–18ページ。
11. On Christianity and Buddhism. 『岡崎学園国際短期大学論集』No.2(1995年3月)、113–116ページ。
12. 「コンピュータにおける日独問題」『ドイツ語情報処理研究』9号(1997年6月)83–91ページ。
13. 「『自由』に代わる理念は現れるか？」『ショーペンハウアー研究』第4号(1999年11月15日)120–127ページ。
14. 「パルジファル — 近代市民社会の中でのミットライト」『ショーペンハウアー

- 一研究』第5号(2000年11月15日)57-76ページ。
15. 「ショーペンハウアー文献案内 — ショーペンハウアー文献の将来 — 」『ショーペンハウアー研究』第6号(2001年6月15日)52-65ページ。
 16. 「近代ヨーロッパのペシミズム」『ショーペンハウアー研究』第8号(2002年6月15日)51-61ページ。
 17. 「意志の肯定と意志の否定 — ショーペンハウアーとニーチェ」『ショーペンハウアー研究』別巻第1号ニーチェ特集(2005年12月)172-186ページ。
 18. 「自由意志の神話崩壊後の道徳を問う — ショーペンハウアーのミットライト倫理の現代的意義」『ディルタイ研究』第18号(2007年12月)78-89ページ。
 19. 構想力としての世界 — カント『純粋理性批判』演繹論の受容から見る初期ショーペンハウアー哲学の再構築 — 『理想』第687号 特集 ショーペンハウアー哲学の最前線, 理想社, 2011年9月 (ISBN978-4-650-00687-2), 2-22ページ。
 20. 意志が物自体である、とはどういうことか? — ショーペンハウアー哲学形成期におけるカント『純粋理性批判』原則論の受容から見る「意志のアナロジー」『ショーペンハウアー研究』第16号、2011年12月、60-83ページ(レフェリー付論文)。
 21. Kunst - zwischen Mitleidsgemeinschaft und Diskursgesellschaft, *Schopenhauer-Jahrbuch* 93 (2012), pp.285-294.
 22. Schopenhauer und Kant. Rezeption der "transzendentalen Analytik" der Kritik der reinen Vernunft in der Frühphilosophie Schopenhauers, in: *ethic@* v.11, n.2 (2012), eISSN 1677-2954
 23. 公共性概念の再構築(Reconstruction of the Concept of Public Sphere) 『総合政策研究』No.44 2013年7月号 陣内正敬教授追悼号 27-39ページ。
 24. 若きショーペンハウアーとシェリング。よりよき意識と知的直観をめぐって。『シェリング年報』2016年第24号 88-98ページ。

C. 口 頭 発 表

(すべて個人発表)

1. Schopenhauer und der Buddhismus—im Blick auf Kant und den deutschen Idealismus. 「ショーペンハウアーと仏教。カントとドイツ観念論とを視野において」、ショーペンハウアー協会主催連続講演会。1983年2月7日及び3月7日、ミュンヘンにて。
2. Schopenhauer und der Buddhismus—im Blick auf das prajna-paramita-hrdaya-sutra. 「ショーペンハウアーと仏教。般若心経を視野において」インスブルック哲学会、ショーペンハウアー協会共催講演会。1983年5月10日、インスブルック大学にて。
3. Schopenhauer und der Buddhismus. 「ショーペンハウアーと仏教」、ショーペンハウアー協会主催講演会。1983年9月6日、フランクフルトにて。
4. Schopenhauer und der Buddhismus. 「ショーペンハウアーと仏教」、ウィーン大学哲学部、ショーペンハウアー協会共催講演会。1984年1月18日、ウィーン大学にて。(上記C3の改訂版)
5. Das bessere Bewußtsein beim jungen Schopenhauer. 「若きショーペンハウアーにおける『よりよい意識』」、トリエント宗教学研究、ショーペンハウアー協会共催学会「ショーペンハウアーと聖の問題」。1984年4月26日、トリエントにて。
6. Technik im Westen und Osten. 「西洋と東洋とにおける技術」、国際ハイデッガー学会「ハイデッガーによる・ハイデッガー以降の時代批判」。1984年5月10日、アウグスブルクにて。
7. 若きショーペンハウアー。カント哲学の一展開。日本カント協会、1987年11月28日、東京大学にて。
8. Platonische Idee und die anschauliche Welt: Grundstruktur der Welt als Vorstellung. 「プラトンのイデーと直観的世界。表象としての世界の根本構造」、ショーペンハウアー生誕200年記念国際学会講演、1988年5月8日、フランクフルト大学にて。
9. ショーペンハウアー研究の現状。日本ショーペンハウアー協会研究会報告、1988年6月26日、武蔵大学にて。
10. ショーペンハウアーの「現象学」。ショーペンハウアーとフッサール。現象学社会学会研究報告、1988年9月10日、慶応義塾大学にて。
11. 若きショーペンハウアーにおける「意志としての世界」の構想。日本ショーペンハウアー協会全国大会研究発表、1988年10月1日、明治大学にて。
12. Was die Ankunft ist und was sie nicht ist. 国際ハイデッガー学会、1988年5月29日、

インスブルックにて。

13. ハイデッガーとショーペンハウアー。日本ショーペンハウアー協会全国大会研究発表、1989年10月1日、日本大学にて。
14. Der Fall Nishida: Ein philosophisch-interkulturelles Gespräch. ショーペンハウアー協会主催講演会、1991年1月11日、フランクフルト大学にて。
15. さまよえるワグナー。「優しい学としての哲学」の観点より見たワグナー論。日本ショーペンハウアー協会全国大会研究発表、1993年10月2日、愛知学院大学にて。
16. Schopenhauersche Wende der Philosophie. Einleitung in die Philosophie als sanfte Wissenschaft. 国際ショーペンハウアー学会講演、1993年12月3日、ポツダムにて。
17. 意志の哲学——ショーペンハウアーとニーチェ。日本ショーペンハウアー協会全国大会研究発表、1994年10月1日、東京大学（駒場）にて。
18. 大学における外国語集中講座 — その将来的意義と問題点。外国語による講義の受講可能な言語力の評価に関する研究会 — 大学の国際化の中で短期留学制度と集中外国語学習の接点を探る — （1996年6月21日、文部省大学入試センター）
19. Zwischen Humanismus und Anthropozentrismus — Über die Prinzipien der philosophischen Umweltethik 「人間主義と人間中心主義の間。哲学的環境倫理の諸原理について」ショーペンハウアー協会フランクフルト支部研究会（1996年7月12日、ショーペンハウアー・アルヒーフ）
20. ラインホルトとショーペンハウアー — 優しい学としての哲学・続編 —。日本ショーペンハウアー協会第九回全国大会（1996年10月5日、日本大学理工学部駿河台校舎）
21. ドイツの学校（特に初等教育）におけるバイリンガル教育について。外国語による講義の受講可能な言語力の評価に関する研究会 — 21世紀に向けての国際化とは — 留学生と帰国生徒の現状の視点から — （1996年10月25日、鹿児島経済大学地域総合研究所）
22. Karmatische Überlegungen der Technik 技術のカルマ的考察。国際会議「21世紀における人間と地球のエコトピア—地球上で理想的に生きるには」（1996年5月1日、韓国デアグ・ケイミュン大学）
23. ショーペンハウアー哲学の将来的課題。日本ショーペンハウアー協会関西支部研究会（1997年4月24日、梅田・関西文化サロン）
24. Welchen Beitrag kann heute in der ausgehenden bürgerlichen Neuzeit die Religion leisten?

- 国際会議「世界の諸宗教」(1997年7月18日、ゲーティンステイトゥート・ブリーン)
25. 「自由」に代わる理念は現れるのか? 日本ショーペンハウアー協会第十回全国大会 (1997年10月4日、関西学院大学文学部)
 26. Arthur Hübschers Beitrag zur modernen Schopenhauer-Forschung ショーペンハウアー財団・ショーペンハウアー展覧会開催記念会議 (1997年10月29日フランクフルト大学図書館)
 27. Gibt es eine Alternative zur neuzeitlichen Freiheitsidee? 日独ショーペンハウアー学会 (1999年9月11日デュッセルドルフ、日本文化センター)
 28. 近代市民社会とミットライト。日本ショーペンハウアー協会第十二回全国大会 (1999年10月2日、関西大学)
 29. 自由の運命 — 自由概念の歴史的・比較文化的考察。共同研究プロジェクト「アリストテレスかニーチェか」、(1999年10月16日、名古屋大学法学部)
 30. ショーペンハウアー研究の最前線。学習院大学哲学会公開講演会 (2001年12月1日、学習院大学)
 31. 近代ヨーロッパのペシミズム。第15回ショーペンハウアー協会全国大会 (2002年10月5日、大正大学)
 32. 地域における動物愛護の意味。ヒトと動物の関係学会 (2003年10月21日、東京大学)
 33. コミュニティにおける動物愛護。大阪府動物愛護推進員講習会 (2004年1月21日、大阪府庁)
 34. 意志の肯定と意志の否定 — ショーペンハウアーからニーチェへ。ニーチェセミナー、鎌倉 (2004年5月3日、西田幾多郎旧邸)
 35. Schopenhauer's Relevance for Contemporary Society, マニラ、フィリピン (2004年8月14日、ラサール大学哲学部講演)
 36. Pessimistic Society versus Pessimistic Religion. Schopenhauer and Buddhism, International Conference bilaterally organized by the IDSS, India and the Schopenhauer Research Center, University of Mainz, Germany: Schopenhauer and Indian philosophy: A Dialogue between India and Germany. デリー、インド (2005年2月22日、インド・インターナショナルセンター)

2005年度 (学院留学中)

37. Der Einfluß von G. E. Schulze und Schelling auf Schopenhauers Theorie der Willensverneinung – Für die Standortbestimmung der Schopenhauerschen Philosophie. 国際ショーペンハウアー協会、国際フィヒテ協会、国際シェリング協会共催ショーペンハウアー学会、フライブルク、ドイツ (2005年5月5日、フライブルク大学)
38. Todesverständnisse in der japanischen Kultur. マインツ、ドイツ (2005年6月30日、マインツ大学哲学部講演)
39. Pessimistischer Idealismus: Schopenhauer und der Buddhismus 国際ショーペンハウアー学会 — ショーペンハウアーとインド。マインツ、ドイツ (2005年7月7日、マインツ大学)
40. Die Struktur der Welt als Vorstellung 表象としての世界の構造。国際ショーペンハウアー協会コロキウム。マインツ、ドイツ (2005年8月25日、マインツ大学)
41. Schopenhauer-Verständnisse in den Hegelschulen um 1848. 国際ショーペンハウアー学会。レッツェ、イタリア (2005年9月23日、レッツェ大学)
42. Zur Struktur der Willensverneinung bei Schopenhauer auf transzendentalphilosophischer Grundlage. 国際ショーペンハウアー学会「ショーペンハウアーの意志の哲学」。サンパウロ、ブラジル (2005年10月26日、サンパウロ大学)
43. Mainländer-Rezeption in Japan. 国際マインレンダー協会設立大会。オッフエンバッハ、ドイツ (2005年11月28日、オッフエンバッハ文学館)
44. Die Entstehung der Philosophie Schopenhauers im Kontext des deutschen Idealismus ワルシャワ/ポツナン/クラカウ、ポーランド (2006.03.10~14、ワルシャワ大学、ポツナン大学、クラカウ大学各哲学部で講演)
45. マインツ大学講義 (2005 春学期、週一回)
- (1) Schopenhauer zwischen der ostlichen und der westlichen Philosophie (東洋哲学と西洋哲学のはざまのショーペンハウアー)
- 45a. マインツ大学講義 (2005/2006 秋学期、週一回)
- (2) Mitleid als Kritik der Moderne (近代批判としてのミットライト)
- (3) Philosophie Ostens (東洋の哲学)
- マインツ大学セミナー (2005/2006 秋学期、週一回)
- (4) Die Entstehung der Schopenhauerschen Willensphilosophie (ショーペンハウアー・意志の哲学の成立)
-
46. Waren Hegel und Schopenhauer wirklich Erzfeinde? Wille und Vorstellung als die elementaren Vollzugsweisen des neuzetlichen Menschen. 国際ヘーゲル学会。ポツナン、ポーランド (2006年9月20日、ポツナン大学)

47. 自由意志の神話崩壊後の道徳を問う — ショーペンハウアーのミットライト倫理の現代的意義、日本ディルタイ協会関西研究会「道徳論の諸相と行方 — カント、ショーペンハウアー、ディルタイ」(2006年7月1日、関西大学尚文館)
48. 若きショーペンハウアーはどこまでカント哲学を受容したのか — 『純粹理性批判』から『充足根拠律の四方向に分岐した根について』へ 日本ショーペンハウアー協会第20回全国大会(2007年11月25日、八王子労政会館)
49. Kamata, Yasuo (Japan): Young Schopenhauer Research. Schopenhauer and the German Idealism. 第12回世界哲学会、ソウル(2008年8月2日、ソウル大学)
50. Schopenhauer liest Kant über Reinhold und G. E. Schulze. IV International Schopenhauer Colloquium, リオ・デ・ジャネイロ(2009年10月10日、リオ・デ・ジャネイロ・カトリック司教区立大学)
51. 伝統と実験 — 日本近代の社会変化の中での芸術理解(日本語)。International conference Agent of Modernity、台北、台湾(2010年3月27日、台北高等師範大学コンフェレンス・ホール)
52. Die Kunst zwischen Mitleidsgemeinschaft und Diskursgesellschaft、国際ショーペンハウアー協会設立100周年記念学会、フランクフルト(2010年9月23日、フランクフルト大学)
53. 「意志が物自体である、とはどういうことか? — 「意志と表象としての世界」の意味の再解釈に向けて」。日本ショーペンハウアー協会第23回全国大会。(2010年11月27日、東京大学)
54. Das Leben als Wille und Vorstellung – Lebensauffassung des jungen Schopenhauers. 国際学会 Schopenhauer et la question de la vie、トゥールーズ、フランス(2010年10月23日トゥールーズ大学)
55. Schopenhauer und Kant. Rezeption der „transzendentalen Analytik“ der *Kritik der reinen Vernunft* in der Frühphilosophie Schopenhauers. V. International Schopenhauer Colloquium、フロリアノポリス、ブラジル(2011年11月11日、サンタ・カタリナ州立大学)
56. Metaphysical and ethical Selflessness as the fundamental basis of the ethics of compassion - Schopenhauer and Buddhism. International Dharma-Dhamma Conference、ボパール、インド(2012年9月23日、ボパール市庁ホール)
57. Tat Tvam Asi and Compassion. Schopenhauerian Ethics in the perspective of comparative Religion、デリー、インド(2012年9月18日、デリー大学デシュバンドゥ・カレッジ)

58. Arthur Schopenhauers Lehrjahre. 国際ショーペンハウアー協会2012年度大会、フランクフルト (2012年10月5日、カリタス・レーベンスハウス・コンフェレンスホール)
59. From Spontaneity to Will – a Transcendental-philosophical Reconstruction of the Schopenhauerian Philosophy. World Congress of Philosophy, アテネ (2013年8月4日、アテネ大学)
60. Verwunderung und Tod - das metaphysische Bedürfnis des Menschen. XXIII World Congress Of Philosophy, アテネ (2013年8月5日、アテネ大学)
61. Die Kant-Rezeption des jungen Schopenhauer in *Ueber die vierfache Wurzel des Satzes vom zureichenden Grunde*. 国際ショーペンハウアー学会 „Nichts ist ohne Grund warum es sey“ – 200 Jahre Schopenhauers Dissertation *Über die vierfache Wurzel des Satzes vom zureichenden Grunde*, ナウムブルク、ドイツ (2013年11月15日、ニーチエ資料センター)
62. 若きショーペンハウアーとシェリング。日本シェリング協会第24回総会 (2015年7月4日、神奈川大学)
63. Die transzendente Idealität und die empirische Realität der Welt als Vorstellung - Schopenhauers doppeltes Philosophieverständnis. VII. Internationales Schopenhauer-Kolloquium der Forschungsstelle für Doktoranden 基調講演。マインツ (2015年7月24日、マインツ大学)
64. ショーペンハウアー哲学における理論と実践との関係への新解釈。伊藤貴雄著『ショーペンハウアー 兵役拒否の哲学—戦争・法・国家—』合評会 (2015年3月23日、立正大学)
65. ショーペンハウアーの哲学理解 — 観念論と実在論の関係を巡って 学習院大学人文科学研究所講演会 (2015年10月5日、学習院大学)
66. A Holistic View of Religions for the Harmony of Humankind – Liberation and Control of Desire in the modern World. 3rd International Dharma-Dhamma Conference, インドール、インド(2015年10月26日、ブリリアント・コンベンション・センター)
67. A Holistic View of Religions for the Harmony of Ecology and Economy. デリー、インド (2015年10月30日午前、デリー大学デシュバンドウ・カレッジ)
68. From Spontaneity to Will – a Transcendental-philosophical Reconstruction of the Schopenhauerian Philosophy (Ver. 2). デリー、インド (2015年10月30日午後、デリー大学哲学部)
69. Holistic View and Control of Desire - Contribution of the Traditional Religions to the Modern World of Economism, ウッジャイン、インド(2016年5月13日、Simhastha International Convention)

D. その他

1. [翻訳] ヴォルフガング・シルマッハー「エコソフィー。ハイデッガーの思想の現在」『理想』(理想社) 昭和 60 年 7 月号、82-89 ページ。
2. [翻訳] アルノ・バルツィ「機械の相のもとでの法」『比較法学』(早稲田大学比較法研究所) 第 21 巻第 2 号 昭和 63 年 1 月号、159-177 ページ。
3. [翻訳] アルノ・バルツィ「操作万能の自由」『人間存在論』(『人間存在論』刊行会) 第 1 号平成 7 年 3 月、1-16 ページ。
4. [翻訳] (共訳) ショーペンハウアー「充足根拠率の四つに分岐した根について」鎌田康男・斎藤智志・高橋陽一郎・臼木悦生訳著『ショーペンハウアー哲学の再構築』(法政大学出版局、2000 年 10 月 20 日)。
5. [辞典記事]『新カトリック大事典』全 4 巻+別巻(新カトリック大事典編纂委員会) 執筆項目「主意主義」「シュルツェ」「ショーペンハウアー」(平成 8 年～22 年)。
6. [辞典記事]『カント事典』(弘文堂) 執筆項目「ショーペンハウアー」「ペシミズム」(平成 9 年 12 月)
7. [辞典記事]『哲学・思想事典』(岩波書店) 執筆項目「意志と表象としての世界」「主意主義」「ショーペンハウアー」(平成 10 年 3 月)
8. [辞典記事]『哲学の木』(講談社) 執筆項目「意志」「運命」(平成 14 年 3 月)
9. [書評] 伊藤貴雄著『ショーペンハウアー 兵役拒否の哲学』『ショーペンハウアー研究』第 20 号、2015 年 10 月、146-153 ページ。

以上